

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3670101389
法人名	医療法人 鴻志会
事業所名	グループホーム サムデイ
所在地	徳島県徳島市川内町平石若松95 (電話) 088-666-3151

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 22日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1月 6日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	11 人 常勤 11人, 非常勤 0人, 常勤換算 1F 3.4人, 2F 5人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	220 円	昼食 340 円
	夕食	340 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 78.41 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・大塚外科内科
---------	---------

徳島県 グループホームサムデイ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道11号を少し東に入りのどかな田園地帯に位置している。利用者の殆どは町内の方であり、家族も良く訪れている。近くに保育所、中学校、大型のスーパー等があり、地域ともよく交流している。職員は業務に熱心であり、特に月に2回19時~21時の2時間、法人の代表者も参加するカンファレンスに夜勤者以外全員が参加、討議しサービスの質の向上を目指している。近くに理事長宅があり、必要時早い対応が望めるため、利用者および家族は毎日を安心して過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善事項の①「確実な申し送り、情報伝達のシステム化」に対しては、申し送り事項や情報の共有化のためのサイン、押印がみられた。②「具体的な介護計画の作成」についてはサービス内容面で、具体的な記載はない。③「計画的な研修の実施と報告」については、年間の研修計画が立てられ実践されている。④「全職員の参加による昼食時の雰囲気作り」については、食事介助等の中で色々話しかけをしており、和やかさと団らんのある雰囲気作りがみられた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価および外部評価の意義を理解し、項目ごとに検討を行い、必要項目については改善をするなど、全員で取り組み報告書が作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年5月以降、運営推進会議は開催できていない。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム内に意見箱を設置している。また、家族の来訪時にそつと尋ねたり、家族会で議題にする等して聞き出している。少ない意見でも真摯に受け止め、運営に反映できるよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会には法人として入会している。得られる情報を基に、地域の行事、地域活動に参加して地元の方達と交流している。利用者は地元の方が多く家族の来訪も多い。主食の米も地元から購入している。野菜等をもらうことも多い。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で明るく、楽しく、安らぎと幸せを実感できる毎日を過ごすことができるような理念をつくり、その理念に沿ったサービスの提供を目指している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に職員の目につく場所に、理念と運営方針を掲げている。月に2回開催しているカンファレンスやミーティング時に職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には法人として入会しており、母体法人を通して地域の行事等、地域活動に参加して地元の人々と交流している。また、地元の阿波踊りの連の方たちに踊ってもらったり、婦人会、保育所の園児達の来訪もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員は自己評価および、外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月以降、運営推進会議は開催できていない。	○	2ヶ月に1回の定期的な運営推進会議が確実に行われることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険更新手続き等の際に市町村へ出向く時があるが、それ以外に、相談等に関しては、電話での話し合いが多く、行き来する機会がない。	○	電話での話し合いに加え、市町村担当者や行き来する機会を作るなど、よりサービスの質の向上につながる取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、月初めに担当の職員が、それぞれの担当している利用者の事業所内での暮らしぶりや、健康状態、職員の異動、金銭の出納報告等を手書きして、家族に送り報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や、家族の来訪時に聞くなどの機会を作り、それらを運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職をできるだけ最小限に抑える努力をし、やむを得ない場合は利用者説明したり、家族会で新入職員を紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、グループホーム協会などの研修会にはできるだけ多く参加できるようにしている。スタッフ間での話し合いや、希望、担当している業務内容等を考慮して参加順位を決めている。また、ホーム独自で事故発生防止、感染防止、緊急対応等の実務研修計画を立て実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと交流を行ったり、外部の研修会に参加時に他のホームの方と交流をし、それを基にサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と相談をしながら、他の利用者との関係作り、呼び名等を尋ねたり、場の雰囲気に徐々になじめるよう配慮しながら工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、食事前の手洗い等の言葉かけを利用者同士で行うなど、共に支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。本人の意向の把握が困難な場合は家族と相談しながら、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、その家族、必要な職員が、利用者本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。しかし、計画には具体的なサービス内容が記載されていない。	○	介護計画に、本人、家族の希望を入れ、長期・短期目標が挙げられているが、目標達成のためのサービス内容のより具体的な表現についての検討を期待されたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況、効果などを評価しながら、決められた期間内に見直しをしている。また、利用者の状態変化や状況、本人や家族の要望に応じて見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じ、外出、外泊、医療連携等に柔軟に対応している。また空室がある時等にショートステイの利用ができるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日常的な会話の中で、状態が重度化した場合や、終末期のあり方について、本人や家族、かかりつけ医と話し合い、方針を決め、職員間でもその方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう心がけている。記録等の個人情報の取り扱いにも注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず、本人のペースを大切に、希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、利用者と職員と一緒に、それぞれの力を活かし準備や盛りつけ、片付けをしている。職員は利用者と同じテーブルと一緒に食事はしていないが、食事介助等で話し合いながら、和やかな食事場面が展開されている。巻き寿司も利用者の摂取できる力を考慮しながら、本人の摂取能力に応じて作られている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日できるようにしている。本人の希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。花を生けたり、畑や花の水やり等利用者の力にあわせて、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って戸外に出かけられるよう支援している。買い物や散歩、草取り、洗濯物干しであったり、時に家族とともにお墓参りにも出かけたりと、季節を肌で感じられる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が、居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出しそうな様子を察知すれば、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、一緒について行く等、安全面に配慮して自由な暮らしができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震等災害に向けてマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を行っている。事業所単位での具体的な地域との連携体制が整備されていない。	○	運営推進会議等を活用し、地域の人々の協力を得られるような体制作りを期待されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日チェックをし職員全員で共有している。一人ひとりの食事摂取量から、法人の管理栄養士に専門的な立場からのアドバイスを得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は広く、テーブルやソファ、鉢植え等が利用者の好みを取り入れ、バランスよく使いやすい様配慮しながら配置されている。利用者の家族から贈られた段飾りの雛人形が利用者の見やすい位置に飾られ、季節感が感じられる。また、浴室の入り口には暖簾を、トイレの入り口にはそれと判るよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人、その家族と相談し、普段使い慣れた物や好みの物を持ち込み、使いやすく配置している。また生け花が好きな方がおられ、たくさん季節の花が生けられていた。ホームの設計時の配慮から、すべての居室に、冬の暖かい陽の光がいっぱい差し込んでいた。		